

日敷消行ての後源右衛門、劔術功者のよし、誰れいひふる、ともなしに家中へばつと其沙汰聞へて、額に鑷子をあて、鬢に伽羅を引程の若い者ども打より、心安だての師匠にたのみ。略下

〔明良洪範〕増譽曰、前田利家ノ姓ハ菅原ナリ。略中 利常鼻毛ノ延過テ見苦シケレドモ、是ヲ申出

ス者ナシ、本多安房守ガ鏡ヲ土産ニシテ、近習ノ士ニ申付、鼻毛ヲ夜詰メニハ拔セテ見レドモ、知ラザルヨシニテ居給フ、此節近仕シケル掃除坊主入湯ノ土産ニ、横山左衛門佐ガ指圖シテ、鼻毛ヌキヲ捧サセケル、利常是ヲ見給ヒテ、老臣以下ヲ招キ申サレケルハ、我鼻毛ノ延タルヲ、何レモ笑止ニ思ヒ、世上ニテ鼻毛ノ延タル虚氣者ナドイフハ、利常モ心得テ居ルゾ、此頃安房守ガ鏡ヲ送リタルヨリ、近習ノ者共、懐へ顔ヲ差入、鼻毛セ、クリ、態ザト痛ムツラツキ、此ノ坊主ガ、鼻毛ヌキヲ持參シタルモ、汝等ガサシヅセズバ、争デカ持參セン、皆察シナガラ、其マ、ニサシ置シ也、其意味申聞スベキ爲呼タリ、我今大名ノ上座ニシテ、官祿日本ニ知レタル利常、利口ヲ鼻ノ先ニ顯ハス時ハ、人氣ヅカヒシ大キニ疑ヒ、存ジ寄ザル難ヲ請ル者也、我タハケヲ人ニ知ラセテ、心易ク三ヶ國ヲバ領シ、何レモ樂シマシムルハト宣ヒシト也、

〔幕朝故事談〕公方家

館林様御加増の時分は、御老中御用部屋迄御禮に御出被遊候、其節空印髭を抜て居、御著座の時に臨て、鑷を收て御仕合の儀など御挨拶申上る、

〔嬉遊笑覽〕容一 儀下鑷子、髭を作る事を好むころ、書院のたばこ盆に毛拔を添置たり、是を書院けぬき

といふ、明暦二年の刻様、世話焼草になむぼうか冷る書院の内ならん月にくさめをするはな毛拔、南方は毛拔の異名なり、漢土にても白髪を抜く、これを鑷白といふ、楊誠齋鑷白詩、止酒愁無那、哦詩意已關、鑷髭非急務、也遣半時閑。略中

ある通人と稱する者、心に協へる鑷工あり、是を雇ひて額髪を抜しむ、鑷工家内に要事ありて歸